

宗像市議会会議録より引用

2022年03月03日:宗像市:令和4年第1回定例会(第5日) 本文

令和4年 3月 3日(第5日)

開 議 10時00分

○神谷議長

皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は20人で、全員であります。よって、令和4年第1回宗像市議会定例会は成立しましたので、再開します。

これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

なお、本定例会では、新型コロナウイルス感染症予防のため、執行部の出席については関係部署にとどめるなど、3密を防ぐ配慮を徹底した上、進めてまいりますので、発言につきましては簡潔明瞭に行っていただきますよう、御協力をお願いします。

これより日程に入ります。

日程第 1. 一般質問

○神谷議長

日程第1、一般質問を行います。

2番、石松修議員の質問を許します。石松議員、どうぞ。

○2番(石松修議員)

皆さん、おはようございます。宗像市政クラブの石松修でございます。

それでは、早速質問に入らせていただきます。

自治体広報・情報発信の在り方について。

施策の周知にとどまらず、移住・定住・観光・企業誘致などを促進・活性化するためのシティープロモーションとして、自治体広報の推進が求められていると感じます。

市長は、令和3年度施政方針にて、「情報発信の取組につきましては、広報紙や新聞といった紙媒体から、テレビやラジオなどのマスメディア、ホームページやSNSといったインターネットの活用など、それぞれの発信媒体の特性を生かし、まちの魅力や特色のある取組をしっかりと市内外に発信してまいります。特に、SNSを活用した発信では、フェイスブック、ユーチューブに加え、昨年からはLINE、インスタグラムに公式アカウントを開設しており、今後も写真や動画を効果的に活用し、分かりやすい発信に努め、これまで以上に市の情報にアクセスしやすい環境を整えてまいります」と表明されてあります。

また、令和2年9月24日に策定した宗像市公式ソーシャルメディアガイドラインによると、「フェイスブックやツイッター、ライン等のソーシャルメディアは、近年利用者が急増し、人々の生活に身近な情報の伝達手段として浸透しつつあり、企業や自治体においても広報ツールとしての活用が広がりを見せている。ソーシャルメディアは、刻々と変化する情報を幅広く発信する手段として有効であり、広報紙や新聞、テレビ、ホームページ等、既存の広報媒体と組み合わせて活用することで、より効率的、効果的な広報活動が可能となる」とあります。

これらを踏まえて、現在の状況及び今後の取組についてお伺いいたします。

- (1)自治体広報・情報発信はどのようなものが求められていると考えるか。
- (2)宗像市公式LINE、公式フェイスブック、その他公式アカウントの運用状況について。
- 1)委託により発信しているもの、担当課が直接発信しているものなど、アカウントの運用状況は。
- 2)アクセス数、登録数などの当初の目標及び現在の状況は。また、今後の取組と目標は。
- (3)定例記者発表の開催方法、また、宗像記者クラブの概要及び市との協力関係はどのようになっているか。
- (4)他自治体などでは、SNSで首長、自治体職員等が自ら発信する事例が見受けられるが、どのように考えるか。

以上、よろしくお願いいたします。

○神谷議長

石松議員の質問に対し、執行部の答弁を求めます。

伊豆市長。

○伊豆市長

それでは、私のほうから、(1)自治体広報・情報発信について、どのようなものが求められているかについてお答えし、(2)以降は部長から答弁させていただきます。

情報の発信手段は、日々多様化しており、市民が利用しやすい媒体も変化し続けています。

市民の皆さんにアクセスしやすく、分かりやすい情報の提供は、自治体広報・情報発信の在り方として大前提であり、これを踏まえて、これからは市民の皆さんが欲しいと思っている情報をこちら側から直接届けるプッシュ型による情報発信が必要になってくると考えています。

例えば、子育て世代の方には子育てに関する情報、親の介護等に関わっている方には介護の情報といったように、必要としている人に必要な情報を届けるといった仕組みを、引き続き充実・構築していきたいと考えています。

以上です。

○神谷議長

力丸総務部長。

○力丸総務部長

それでは、(2)以降、私のほうからお答えさせていただきます。

まず、(2)の公式アカウントの運用状況についてですが、1)のアカウントの運用状況については、秘書政策課が運用する総合的なSNS等の公式アカウントは、LINE、フェイスブック、インスタグラム、ユーチューブの4種があります。

担当部署が運用する公式アカウントは、フェイスブック、インスタグラムが合計で12ございます。

記事の作成につきましては、基本担当課が直接作成しており、一部を市民から公募したママ・パパレポートに謝金をお支払いして作成しております。

次に、2)の登録数などですが、それぞれのアカウントの令和3年度の登録目標は、LINEは1万件、フェイスブックは4,600件、インスタグラムは2,000件、ユーチューブは1,000件であり、令和4年1月末時点の現状は、LINEは1万6,180件、フェイスブックは4,522件、インスタグラムは1,465件、ユーチューブは1,010件です。

LINE、ユーチューブは今年度の目標を達成しておりますが、フェイスブック、インスタグラムについては、ま

だ目標に達していない状況でございます。

今後も新たな目標を毎年度設定し、市民への浸透に取り組んでまいります。

各媒体の特性や利用者属性の傾向を踏まえ、複数の広報媒体を組み合わせることで、より効果的・効率的な運用を目指してまいります。

次に、(3)定例記者発表の開催についてですが、月に1回、市長によるメディアへの情報発信の場として開催しております。

定例記者発表のタイミングに合わない案件につきましては、随時メールとファクスでメディアへの発信を行っております。

宗像記者クラブの概要については、朝日新聞、西日本新聞、毎日新聞、読売新聞の4紙で構成されており、毎月の定例記者発表へ参加していただくとともに、地域情報の発信の点で御協力をいただいております。

自治体情報をメディアで取り上げてもらうということは、広く市民の皆様への周知につながることであるので、今後とも良好な関係を構築していきたいと考えております。

最後に、(4)の首長、自治体職員等によるSNSでの発信についてですが、市としての公式な情報発信につきましては、個人としての発信なのか、自治体としての公式な発信なのかを明確に区別する必要があると考えております。

自治体の広報の役割として、市民の皆様には正しい情報を伝えるというところでございますので、そういった観点から、発信元は市公式アカウントに限定して発信しております。

市長からのメッセージの発信につきましても、公式ホームページに掲載するとともに、同様の内容を市公式LINE及び市公式フェイスブックで発信しております。

以上でございます。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

御答弁ありがとうございます。

市の情報発信は古くから市の広報紙もありますし、また、ホームページも充実しております。

そういった中で答弁にもありましたように、SNSによる情報発信の重要性というのを執行部の皆さんも認識していただいていると感じます。その辺りをもう少し深掘りしていきたいと思っております。

一般質問でもほかの議員の皆さんが様々な問題を取り上げているわけですが、その中でせっかく制度があるにもかかわらず、それが必要な方に届いていない、そういった指摘が今回の議会でもあっております。

必要な方に必要な情報を届ける。行政の役割というのは市民のためにあると思っておりますので、そこが非常に大事かと思っております。

先ほど答弁にありましたように、市民の皆さんが欲しいと思っている情報をこちら側から、行政側から直接届けるプッシュ型による情報発信ということの重要性を述べていただきました。これは具体的にはどのように行うのでしょうか。

○神谷議長

力丸総務部長。

○力丸総務部長

プッシュ型による情報発信について少し述べさせていただきます。

発信者である市から対象者へ情報を届けるプッシュ型情報発信の主な手法としましては、紙媒体では広報紙、それから電子媒体では市公式LINEがございます。

特に、LINEでは利用者が欲しい情報を選択して受け取れるセグメント配信を実施しており、引き続き、発信記事の質、量の充実を図っていきたいと考えております。しかしながら、LINEでは長文だと読みにくいという課題もありますので、詳細な情報のお知らせについては、QRコードやリンクでホームページに誘導するという運用を行っております。

今後もプル型であるホームページの掲載情報の充実にも併せて努め、プッシュ型の広報紙及び市公式LINEとの組合せにより、分かりやすい情報発信を行っていきたいと考えております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

プッシュ型、プル型、セグメント配信、LINEさんもIT企業ですので、こういった横文字が出てくるのかなと思います。シンプルに必要な方に必要な情報を届ける、そういった形でいいかと思います。

私も市のホームページは定期的にチェックしておりますし、LINEもしっかり登録させていただいております。日々いただいている情報からまたチェックしております。

市の公式LINEは、以前の私の一般質問でも取り上げさせていただいて、私の身近にいる方から、「このLINEを登録すると便利だから、ぜひ登録してください」というふうに、その辺りも私自身も提案した者として広める努力をさせていただいております。

ホームページですけど、一つの例として見ていただきたいんですが、宗像市リモートオフィス環境整備支援補助金、これ年末にホームページに掲載されておりました。

リモートオフィスを整備するに当たって、市の補助があるということなんですが、今現在、一覧情報をたどっていきますと、これ、最近ホームページをキャプチャーしたものなんですけど、3月1日が最新情報で遡っていきますと、1月22日まで、ここまでしかこのページでは遡ることができません。

私は情報を取るときに、先ほどのリモートオフィスの補助金、宗像市、このワードで検索すると、比較的引っかかってはくるんですが、それで必要な方にちゃんと届くのかなということを思うこともあります。

SNSからホームページにこういった制度ができましたということで、直接ページに届くこともできるんですが、ホームページに何か新しい情報があるかなと思って見に来る方もいらっしゃるわけです。そういった方に、1月の頭に出た情報が今の段階でどこまで届くんだろうかなということを思っております。

新着情報に載らずに、各課のページにしか載ってない情報もあります。この新着情報に載せる基準はどのようなものでしょうか。また、これ過去に遡るときに、今の時点で1月の終わりぐらいまでしか遡れないんですが、これももう少しですね、どのような情報が発信されていたか確認できるということも必要ではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○神谷議長

力丸総務部長。

○力丸総務部長

過去の情報がなかなか見にくいということでございます。

市公式ホームページの新着情報欄には、トップページのもの大きなカテゴリー別のサブトップページの2種類の表示欄がございます。

トップページの新着情報欄には常時10件を表示しており、一覧のアイコンを押すことで、その10件を含めた50件が表示され、確認することができます。

全ての新着情報をトップページに掲載すると記事が漏れてしまい、逆に閲覧が困難になってしまうおそれがあるために、トップページに掲載は緊急性や重要性を基に各課が判断し、掲載している状況でございます。カテゴリーごとのサブトップページの新着情報欄には、原則全て新着情報を掲載することとしております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

先ほどの情報であれば、画面見ていただきたいんですが、ここの欄の「観光・産業・まちづくり」、ここをクリックしていただいて、また、そこの一覧をクリックしていただければ、情報が見れるようになっているということであります。

私も毎日見ている割には気づかなかつたりもしますので、ぜひ情報が届きやすいホームページを心がけていただきたいと思います。

また、戻らせていただくんですが、今、市長、部長のほうから答弁いただいたところなんですが、広報・情報発信を推進するに当たっては、職員の皆さんがしっかりと意識を持っていただくことがとても重要と思います。職員の皆さんに対して、この意識をどのように浸透させていらっしゃるのでしょうか。よろしく願いいたします。

○神谷議長

力丸総務部長。

○力丸総務部長

職員への意識づけというところで御回答させていただきます。

市民に対して、窓口・電話対応、送付文書作成などを行う職員は全員が広報担当であって、市民に情報を届けるということを意識することは大変重要なことだと考えております。

職員の意識づけとしまして、昨年8月、各課に配置している広報・ホームページ委員を対象とした研修を、コミュニティ運営協議会、広報研修会と合同で開催いたしております。

研修会では、元埼玉県三芳町職員で現在は行政自治体の広報アドバイザー、早稲田マニフェスト研究所招聘研究員、厚生労働省年金広報検討会構成員として活躍されております佐久間智之氏を招き、住民に伝える情報発信と題してオンラインでの講義をいただきました。

ただ情報をお知らせする、伝えるではなく、分かりやすく、読みやすく、市民が理解できる、伝わるための情報発信の必要性、また、その手法を他自治体等の例を基にアドバイスをいただきました。

今後も研修等による職員の広報意識の向上を図っていきたいと考えております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

全員が広報担当であって、市民に情報を届けるということを意識する。これが本当に大事であると御答弁をいただきました。まさにそのとおりだと思います。

実はこの昨年8月の研修会ですが、私もコミュニティの広報委員のほうを務めさせていただいておりますので、受けさせていただきました。主に、広報紙をどのように見せていくか、魅力ある広報紙をつくるか、そういったことを講義いただいたんですが、本当に素晴らしいなと思います。

我が市のタウンプレスもとても頑張っていて、今すぐこう変えなければいけないとかそういったものではないかと思います。非常に魅力ある紙面を提供していただいて、必要な情報を載せて、特に表紙は写真を大きく使って、どんなのが載っているのかなど、そういった興味を引くようなつくりにはなっているかと思いません。

もちろん日々より工夫をしていただいてよいものをつくっていく。そういったことが非常に大事ではあると思います。

この佐久間智之さんは元役場の職員ということで、特に学校で専門的な教育を受けたわけではなくて、仕事を通じて広報であるとかSNSの発信、そういった技能を身につけられて、いろいろな自治体にも講演され、わが市も研修を受けたわけですが、その後、役所を退職されて、現在はそれをなりわいにされてある方です。本を何冊も出版されておりまして、私も今回一般質問に当たって参考にさせていただいたところがあります。非常に、専門家の方の知識というのが現場と合っていない部分というのものもあるわけなんですけど、実際に町の職員で実務をされた方の本だから、非常に説得力があって納得のいくものであると私は感じました。

それでは、またSNSの発信について深掘りをさせていただきたいと思います。

市の公式アカウントも非常に充実しておりまして、いろいろ私もチェックさせていただいているんですが、いろいろ工夫を凝らした取組があっているかと思えます。

画面のほうを見ていただきたいんですが、これは総務省のホームページにある資料から持ってきたんですが、令和2年度の主なソーシャルメディア系サービスアプリ等の利用率、年代別ということであります。

面白いのがですね、結構年齢層により使っているSNSが違うということなんですよ。LINE、これ一番上の緑の部分なんですけど、これに関してはほぼ全年齢にわたって幅広く利用されております。50代以降若干下がってくる分はあるんですが、それでも非常に高い利用率があります。

その下の青い部分がツイッターなんですけど、こちらは、20代の方は79.8%、ほぼ8割の方が使っています。ただ、比較的これも40代辺りから使っている方が少なくなってくるような印象ですね。

その次のフェイスブックなんですけど、逆にこれは30代の方が一番多くて、40代の方もそれなりに使われているんですが、逆に若い方にはあんまり使われておりません。どちらかという中高年の方が、私も含めてなんですけど、利用しているメディアになっております。

その下がインスタグラムですね、写真を使ったSNSなんですけど、これは、また若い方の10代、20代の方が非常に多い傾向があります。

その下のほうに、例えば、TikTokというのがあるんですが、これは10代の方が一番多いんですよ。これは年齢層が上がるとあまり使っている方はいません。私もいろんなSNSを利用しているんですが、TikTokはちょっといいかなという感じがあります。

その下がユーチューブなんですけど、これもLINEと併せて幅広い年齢層で利用されている。これはSNSと

いうより情報を、動画を見るというようなサイトでありますので、幅広い年齢層に使われてて、市の公式ユーチューブもありますので、これからまた活用を進めていかなければいけないメディアであるなどということを感じます。

先ほど、各アカウントの運用状況をお知らせいただいたんですが、来年度に向けてどのような目標を持っているかお尋ねしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○神谷議長

力丸総務部長。

○力丸総務部長

各アカウントの来年度の目標につきましては、登録者数、フォロワーの目標値としまして、市公式LINEはこれまでの伸び率から約2割増加の2万人、フェイスブックはここ数年の伸び率から今年度と同じく4,600人、インスタグラムは市外の登録者数の増加も見据え、約3割増加の2,000人、ユーチューブは今後の動画活用の拡大を考慮し約5割増加の1,500人を目指しております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

ちょうど1年前の3月1日現在の登録者数、これ公式LINEなんですが、私そのときの一般質問で、冒頭で報告をさせていただきました。

その時点で登録者数2,300人、目標が1万人で、3月でしたので、年度内に3,000人という目標が掲げられておりました。今の段階で、昨日の段階で1万7,051件のLINEの登録がっております。これは昨年状況を思うと、この1年でよく登録者が増えたなということであります。これは例えば、コロナワクチンの予約をLINEで行って、LINEから予約ページに飛べるとか、そういった活用、工夫をしていただいた結果であると思います。

ただ、もっとたくさんの方に登録していただいたほうがいいのではないかと思います。ちょっと目標数が控え目かなとは思いますが、しっかり続けていくことが大事ですので、特に今回1万人の目標に対して1万7,000人ですから、目標をもっと高いところに持ってきてよかったと思うんですね。その辺り、来年度しっかりまた取り組んでいただきたいと思います。

次に、定例記者発表について、深掘りさせていただきたいと思います。

私も今回の一般質問に取り上げるに当たって、1月と2月の定例記者発表に参加、見せていただきました。ちょうど九州電力や九州共立大学との協定の締結式もありましたので、そちらのほうをちょっと見せていただきたいと思いますという思いもありました。

内容に関しては、月1回、議会のほうでも連絡会議がありますので、そのときにお知らせいただいている内容とそんなには変わらないんですが、何となく記者の方には、ぜひ取り上げてほしいと発表するのに対して、議員のほうには、あんまり突っ込まれないようにみたいな、ちょっとそういう雰囲気の違いを感じたんですが、これは気のせいであれはいいんですが……。この定例記者発表、記者クラブの方を中心に御参加いただいていると思うんですが、どのようなメディアがほかにも参加されておりますでしょうか。

○神谷議長

力丸総務部長。

○力丸総務部長

記者クラブに所属している地元新聞社4社のほかに、昨年の12月からインターネットで情報発信をされておりますウェブメディアである宗像経済新聞に参加していただいております。また、リリース内容によってはテレビ局7社や時事通信社、日本経済新聞社などにも案内して参加していただいている状況でございます。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

私もネット上でウェブメディアである宗像経済新聞社を、この記者発表の前に、ああ、こんな新しいメディアができたんだなということで、ツイッター等をフォローさせていただいているところです。

記者発表にも参加されてあったので、市の公式発表をそういったメディアさんが取り上げていただく、本当にこれは大事なことだと思っております。

かつては、メディアというのは本当に市が直接発信できるのは広報紙ぐらいしかなかった時代もあったんですが、今は御紹介したような様々なSNS、ユーチューブ、動画ですね、そういった放送を市自ら発信できる状況も既に整っております。特に若い人は、逆にユーチューブは見るけど新聞を読まない、もうテレビも見ない。そういった流れにもなっております。

この記者発表、私も見させていただいたんですが、当事者の方も御出席いただいて、例えば1月であれば、赤馬館プロデュースギフトセット第2弾、「宗像okomori set2022」というのが発表されておまして、その商品に関わられた事業者さんが登場されて、直接PRをされておりました。また、2月では「地島天然わかめ」ですね。非常に貴重な天然もののワカメが地島で採れますので、その漁協の方、漁師さんが実際に来ていただいて、その商品をPRされておりました。

これがあくまでも記者発表ですので、市民の方はメディアを通してしか、これ知ることができないんですね。メディアの方も記者の方も必ず取り上げるわけではありません。紙面の都合もありますので、それはメディアの方の裁量もありますので、報道したい重要な事項ということで取り上げてあります。

技術的にはユーチューブを使って、その記者発表をライブ配信して、市民の方に直接見ていただくことも可能な時代になっております。これについてはどのようにお考えでしょうか。

○神谷議長

力丸総務部長。

○力丸総務部長

ライブ配信につきましては、動画情報としてリアルタイムで発信できるというメリットは承知しております。定例記者発表は、記者向け、メディア向けの情報発信の場として位置づけており、ライブ配信を行うことは現在検討しておりません。それで、記者発表の内容の市民向けの発信につきましては、分かりやすく加工した上で、市ホームページ、SNS、広報紙で行うこととしています。

しかしながら、先ほども述べましたが、ライブ配信については、リアルタイムで発信できるという大きなメリットもございますので、定例記者発表会に限らず、ライブ配信や動画での情報発信が効果的であると判断される事業、それからイベントなどにつきましては、費用対効果を考慮し、随時実施を検討していきたいと考え



ております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

記者発表というのも実は結構淡々としてて、一般の方が見ても面白いんだろうかとか、そういった話も聞きますが、逆にそこは工夫していただいて、市民の方が見ても、市はこんなことやっているんだということがじかに伝わる、そういった取組をしていただきたいと思います。

市のユーチューブ配信なんですが、ちょうど卒業シーズンということで、市長と教育長の卒業生の方に向けたはなむけの言葉が今載っております。私も昨日見させていただきました。紙で各卒業生に市長のメッセージを配る、教育長のメッセージを配る、これも簡単なんですけど、やはり直接会うことがかなわなければ、せめて動画で思いを伝えていただける、そういった取組が当たり前になっていけばいいなと思います。そういった卒業生の方に向けた取組をしていただいて、本当にありがたいと思います。

このプレスリリースした情報は、今お話ししたように必ずしもマスコミの情報に掲載されるとは限りません。報道されなかった情報はどのような取扱いをされていますでしょうか。

○神谷議長

力丸総務部長。

○力丸総務部長

定例記者発表や随時プレスリリースで発信する情報は、記者向け、メディア向けの情報でございます。リリースした情報につきましては、市としては広く市民に知っていただきたい情報でありますので、報道の有無に関わらず、市民向けの発信としまして分かりやすく加工した情報を市ホームページや広報紙へ掲載することとしております。

また、現在、定例記者発表で配付する資料につきましては、市ホームページに掲載しています臨時プレスリリースの資料については、4月に予定しているホームページの一部リニューアルから対応することとしております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

プレスリリースをつくるのも職員の方の労力がかかっているかと思っておりますので、ぜひ多くの方の市民の目に触れるような取扱いをしていただきたいと思います。

次に、最近このユーチューブに市の職員の方が出演している動画が公開されているのをお見かけしました。これはどのような目的、経緯でつくられたのか、お尋ねをしたいと思います。よろしくお願いたします。

○神谷議長

衣笠保険医療担当部長。

○衣笠保険医療担当部長

議員お尋ねのユーチューブの動画でございます。こちらの動画は健康福祉部が作成いたしましたので、私のほうから答弁させていただきます。

まず、今回、生活習慣病、それからジェネリック医薬品といった動画を作成した目的でございますが、第2期宗像市国民健康保険事業実施計画におきまして、健康や医療に関する啓発事業の一環として、国民健康保険被保険者や市民の健康意識の向上を図るためでございます。

次に、動画作成に至った経緯でございます。

健康や医療に関する啓発事業は、以前から健康・医療講演会として、イベント形式で毎年開催してきておりました。会場はユリックスや商業施設サンリブで行ってきておりました。御承知のとおり、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いまして、緊急事態宣言等でイベント形式の事業は中止せざるを得ませんでした。そこで、コロナ禍にかかわらず開催できるウィズコロナ型の啓発事業として、職員の発案で動画配信による啓発事業を実施しようということになり、そしてテーマも生活習慣病、それからジェネリック医薬品といった、将来にわたって不変的に活用できるものといいたしました。製作に当たりましては、市職員が脚本を作り、自ら出演し、使用する小道具も手作りすることで経費節減と温かみを演出したり、また、笑えるポイントをつくるなどポップで見やすい動画となるよう工夫を重ねました。専門的見地から、大島診療所の医師や宗像薬剤師協会出演、監修により動画内容に説得力も持たせております。動画の制作に要した費用も、職員自らできる部分は工夫したこともあり、過去の健康・医療イベントに要した費用と比較しても5割程度に抑えることができました。

最後に、この効果でございます。動画を視聴した人の数は動画のアクセス数で分かります。そして、この動画を視聴された方が健診やジェネリック医薬品についての理解を深め、健診受診やジェネリック医薬品を選んでいただくといった行動変容につなげていただくことが最終的な効果と考えております。この動画を見た市民の皆様が健診やジェネリック医薬品を身近に捉えていただき、受診率の向上やジェネリック医薬品の普及が図られ、市民の健康増進と、結果として医療費適正化につながることを期待しております。

以上でございます。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

画面のほう見ていただきたいんですが、これが今、部長が御説明いただきました、これ市のホームページから文言取っておりますが、「YouTubeで学ぶ！生活習慣病&ジェネリック医薬品！」ということで、その二つのテーマの動画が公開されております。これ本当はここで流してもいいぐらいなんですが、そういったことは今はできない状況ですので、このQRコードを読み込んでいただければホームページの該当ページに飛んで見ることができます。

表紙だけ御紹介いたしますと、こちらが生活習慣病編ですね。なかなか楽しそうな雰囲気伝わってないかと思えます。もう一つがジェネリック医薬品ということで、安い、安全ということで、皆さん多分ジェネリック医薬品という言葉自体は聞いたことあるかと思うんですが、それに変わたらどのような効果があるのか、そういったことが非常に分かりやすく、また、今、部長が答弁いただいたように笑えるポイントというのがあります。二つとも大体5分ぐらいなんですよね。これが長いとなかなか見る気になれないんですが、非常にこれ、今後活用ができるものだと思います。今回の一般質問、実はこういったことをやっていただきたい

という思いも一つあったんですが、もうこれは完全に、先にやっていただいたと、これは本当100点満点だと思います。

これ二つのテーマなんですけど、今後市が取り組む様々な周知したいこと、こういった動画を活用して皆さんにお知らせすることができるのではないかと思います。役所の場合、前例がないとなかなか動いてくれませんが、もう立派な前例ができております。そして、業者の力も借りたかと思うんですが、職員の方が自ら主体的に作って、伝えたい思いが非常に伝わってくる動画でありました。本当にこれはすばらしいと思います。

ちょっと画面のほうを見ていただきたいんですが、これ前に農林水産省がやったことのある分なんですけど、農林水産省のホームページから引っ張ってきたんですが、これどこのユーチューバーの画面かという感じなんですけど、「霞が関初！ 官僚系ユーチューバーYouTuber誕生 日本の農林水産業を世界へ。」こういった取組が中央省庁でも行われているので、ぜひ我が市でもどうですかということだったんですが、もう既にやっていたというところであります。これは本当に私自身、非常にすばらしいことであるなということを思っております。

これ、執行部の皆さんもこの市の動画のほうを見ていただいたと思うんですが、どのように評価されておりますでしょうか。

○神谷議長

力丸総務部長。

○力丸総務部長

私も拝見させていただいたときには、こういう制度をあまり熟知してなかったのでも、制度の内容を深く理解できたというところに感心したところが一つと、もう一つ職員が自ら出演して、本当に費用対効果の面でも救われておりますし、こういうことが各職場のほうで普及拡大していけばよいなと素直に感じました。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。昨日の時点でこの再生数なんですが、ジェネリック医薬品のほうは421回視聴、生活習慣病のほうは588回視聴されております。

例えばイベントを行ったとしても何百人の方に集まってもらう。今、非常にそういったのが厳しい状況なんですけど、いつでも好きなときに動画を見て理解を深めてもらう。新型コロナウイルス感染症の影響もありましたけど、新しい取組として非常に評価をさせていただきたいと思います。

議会でも取り上げられます「ふくおか健康ポイントアプリ」というのがあるんですが、今、この動画を見て、ふくおか健康ポイントアプリのアンケートに答えると、300ポイントがつくということを3月末までやっているということですので、ぜひ見ていただいて、忌憚ないアンケートを送っていただいたら、また、作った職員の方も非常に励みになるのではないかと思います。

一通りさっき、SNSの利用状況とかをお話したんですが、私が1点、宗像市がここが弱いのではないかとと思うところがツイッターの活用ですね。画面を見ていただきたいんですが、主要SNSの中でツイッターの活用、これガイドラインでもツイッターというのは触れてあるんですが、今は防災関係の情報を出すツイッターしかありません。市の公式ツイッターというのはない状況ですね。これ非常に多くの中央省庁であるとか、自

治体、そして、市長さん、知事さんとか、いわゆる首長さんも自ら発信されております。

ちょっと御紹介させていただきたいんですが、これ明石市の泉房穂市長のツイッターですね。市長が、明石独自の五つの無料化ということで、主張されているところであります。あとは、お昼御飯の話題とかですね、非常にきつねうどんが好きな方ようです。

岡山県の総社市の片岡市長ですね、この方も私注目させていただいている市長なんですが、月2回ラジオのパーソナリティーをされていると紹介がっております。そして非常に障がい者雇用にも力を入れてありまして、障がいのある方々が作った商品を販売するコーナー、「手のひらマルシェ」をつくりましたという紹介のツイッターですね。これ動画なんですけど、1万3,000回ほど視聴されてあるということですね。

そして、この明石市と総社市は、今回の市議会でもお二人の議員が取り上げてありましたパートナーシップ宣誓制度をそれぞれ導入してありまして、明石市と総社市で相互で使えるようにする協定を結ばれてあります。この左側、総社市の片岡市長が「明石市の泉市長の強烈な個性と私の熱意で両市を皮切りに多くの人を迎え入れたいと思います」とツイートされています。この1時間もしないうちに、今度は明石市の市長が、総社市と結びましたということで、引用のツイートというんですけど、こちらで紹介をされています。非常に連携して、市のホームページとかではちゃんと公式に発表していると思うんですが、これもどこまで打合せしたか分からないんですが、非常に自然な形でそれぞれの市長さんが自分の言葉で、お互いに敬意を払って、それぞれの制度を導入したということをご報告されております。

身近な方をちょっと紹介したいと思います。近隣市であります古賀市の田辺市長のツイッターですね。記者出身ということで非常に情報発信に力を入れている方だと私は思います。

先日、実は私、敵情視察ではないんですけど、古賀市のワーケーション施設、コワーキングスペースがあるところに視察というか、利用しに行っていました。ちょうど大学生の力によるまちの課題解決プロジェクトのオンライン配信がありましたので、そちらを見させていただきつつ、事務処理をやっている、その報告をツイートしたんですが、田辺市長にすぐ見つかってしまいまして、「古賀市にお越しいただき、さらに御紹介までいただき、ありがとうございます。これからは宗像・福津・古賀・糟屋の広域地域振興、ともに頑張ってください」というコメントをいただきました。田辺市長とは同じ高校の同窓ということもありまして、何度かお会いしてお話をさせていただいたことがあります。非常にお忙しい身かと思いますが、こういったちょっとした交流も生まれるようなツールであります。

それですね、できれば、市の公式ツイッター、または、今、御紹介した市長のような、伊豆市長のお名前でのツイッターのアカウントを開設してはどうかなということを感じております。先ほどの動画もありましたが、職員の努力というか、感覚によることも多いのかなとは思いますが、実は伊豆市長のプロフィールを拝見させていただきますと、学生時代は演劇活動に没頭、ラジオパーソナリティー、テレビコメンテーターの御経験があります。そして御自身で好奇心が服を着ているような方だという自己紹介をいただいております。まさに情報発信にうってつけの方ではないかなと私は思うんですが、市長、いかがでしょうか。

○神谷議長

伊豆市長。

○伊豆市長

いろいろプロフィールを紹介させていただいてありがとうございます。市の総合的な情報を発信する新たな公式アカウントについて、他のSNSとの役割分担などを考慮しながら、市公式ツイッターの開設については検討したいと思っております。また、私が個人アカウントで始めることについては現在考えておりませんので、

引き続き市の公式SNSや市のホームページを通じて発信してまいりたいと思います。ただ、先ほども御紹介がありましたように、重要な案件、そして市長として多くの方にメッセージを伝える場合、例えば、新型コロナウイルスに対しての全市民へ向けての自粛のメッセージを出すとか、そういうことについては、引き続き動画等を使って発信はしていきたいと思っております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。宗像市公式ツイッター、ぜひ検討していただいて、市長の個人のお名前では考えていないということだったんですが、公式アカウントの中身は、伊豆市長そのものであると、そういった運用も可能かと思っておりますので、ぜひ御検討をしていただきたいと思っております。

先ほど官僚系ユーチューバーとか、公務員ユーチューバー、市役所職員ユーチューバーみたいな感じもありましたが、市長ユーチューバーという席はまだ空いているのではないかと思いますので、そういったこともぜひお願いしたいなということを要望させていただいて、以上で私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○神谷議長

これで石松議員の質問を終了します。

ここで暫時休憩とします。再開は11時5分とします。

休憩 10時51分

再開 11時05分